様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 21 年 5 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18530132
研究課題名（和文）　ロシア企業における人的資本形成と国際比較

研究課題名（英文）　Human Capital Formation in the Russian Firms and its International Comparison

研究代表者
溝端　佐登史（MIZOBATA　SATOSHI）
京都大学・経済研究所・教授
研究者番号：30239264

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・理論経済学
キーワード：ステークホルダー、コーポレート・ガバナンス、インセンティブ、制度、労働システム、スキル、雇用慣行、ロシア

１．研究計画の概要
(1)「ロシア企業における人的資本形成と国際比較」をテーマにした本研究は、ロシア高等経済大学との国際共同研究で蓄積された実証研究データを分析することで、実証研究の精度を高めるとともに、企業の経営戦略の変容と人的資本形成の動態を関連付けることで、企業システム・その組織と制度にかんする理論的な含意を析出することを課題としている。
(2)平成 20 年度には上記の実証研究と日本企業との国際比較を行い、それを手掛かりにしてロシア企業システムを特徴付け、比較経済システムの理論研究にも貢献することを研究計画の中軸にすえた。その際に、グローバリゼーションなど外的条件の変化に留意すること、現地での聞き取りと専門家との議論を実施すること、国際学会・ワークショップに積極的に関与し、国際的な評価にたえるだけの実証研究に高めるとともに、共同研究の枠組みを広げることに留意した。

２．研究の進捗状況
(1)ロシア高等経済大学との共同研究成果の公表は、平成 20 年 8 月に欧州比較経済学会第 10 回国際大会で行った。本報告は日本企業との国際比較を軸にしたもので、ロシア高等経済大学の V.ラダエフ教授、L.コザルス教授と共同セッションを組織した。本研究は 2007 年にロシア高等経済大学との共同研究として実施した 303 工業企業へのアンケート調査に基づいてロシア企業の行動、とりわけロシア企業における労働システム、雇用慣行、昇進システム、スキル形成を明らかにすることにより人的資本形成の動態を実証研究している。そのうえで、日本の人的資本形成と比較し、ロシアにおいて独自の人的資本形成システムが温存されていることを論証し、制度の持続的作用を論じている。
(2)研究期間中、2008 年世界金融・経済危機が深刻化するなかで、ロシア企業の行動にも変化が観察され、それゆえ経済危機の動態、危機がロシア経済に及ぼす影響を実証的に分析することを本年度の研究課題に付け加えた。本研究にかかわり 2008 年 11 月に現地調査を行っている。本研究成果は研究論文の形で公表すると同時に、平成 21 年 2 月に我が国で初めて開催された欧州比較経済学会アジアワークショップの「世界における経済危機」のセッションで報告している。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
(1)人的資本形成は企業システムを特徴づけており、新興市場における人的資本形成は旧社会主義経済システムの惰性を強く帯びたものであり、それが体制転換過程で編成された市場経済システム・企業システムに独自性を浮かび上がらせている。研究期間初期にロシア企業のコーポレート・ガバナンス、ステークホルダーに光をあてて実証研究するとともに、企業の社会経済環境に注目し、人的資本形成そのものよりも企業組織とその環境に光をあてた。その後、実証データと共同研究の成熟に依拠して本年度までに人的資

本形成の在り方にかんする実証研究を完成させた。経路依存的な労働システムおよびスキル形成を析出し、ロシアに独自の制度が温存されていることを明らかにしている。
(2)実証研究、聞き取りなどの現地調査については、当初打ち合わせなどで手間取ったがおおむね達成されて公表している。総じて、人的資本形成を企業システムと関連付けて分析するという点での達成水準は高い。
(3)本研究は個人研究であるが、国際共同研究として国際水準の研究成果を意識している点についても、毎年国際学会で報告し、研究成果を公国際誌等で公表していることで計画はおおむね達成されている。

４．今後の研究の推進方策
(1)人的資本形成にかんする企業の戦略を明らかにするために、社会的責任経営、従業員の経営参加の動態をさらに検討する。とくに、組織的再編から人的資本形成に生じている変化に注目する。
(2)グローバル化、世界的な経済危機の中での企業システムの変動動態を明らかにする。この研究は当初の課題から部分的に乖離するが、企業システムの持続性を考える上で避けることができないと考えている。
(3)これまでの研究成果を取りまとめる方向で、ロシア企業システムと人的資本の形で図書の形での刊行を目標とする。
(4)研究公表方法においては、これまでと同様に、国際的な共同研究を重視する。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

1.Сатоси Мизобата, Последствия российской трансформациии в третьем мире: тройной аспект, Мир России, №1, 2008, 査読有, c.3-19.（ロシア語）
2.溝端佐登史・小西豊「グローバル経済危機とロシア自動車市場」ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所『ロシアNIS調査月報』2009年１月号、査読無、25－36頁。
3.溝端佐登史「現代ロシア企業の構造と行動にかんする実証研究－2004－2006年聞き取り調査をもとに－」島根県立大学北東アジア地域研究センター『北東アジア研究』第16号、2008年12月、査読無、77－110頁。
4.溝端佐登史「ロシアにおける金融・経済危機と市場構造」大阪教育大学公民学会『公民論集』第17号、2008年、査読無、43－71頁。

〔学会発表〕（計７件）

1.溝端佐登史「ロシアにおける大手資本の変容と事業戦略」、経済研究所研究会、比較経済体制研究会合同大会、2008年４月26日、京都大学。
2.Satoshi Mizobata, “Changes of corporate governance and labour systems in transition: A comparison of Russia and Japan”, マクロ経済・経済システム研究会、比較経済体制研究会合同大会、2008年６月28日、京都大学（英語）。
3.Satoshi Mizobata, “Changes of corporate governance and labour systems in transition: A comparison of Russia and Japan”, 欧州比較経済学会（European Association for Comparative Economic Studies）10th Bi-annual Conference, 2008年８月30日、ロシア高等経済大学、モスクワ、ロシア（英語）。
4.Satoshi Mizobata, “Financial Crisis in Russia”, 欧州比較経済学会（European Association for Comparative Economic Studies）Asian Workshop in Kyoto, 2008年２月27日、京都大学（英語）。

〔図書〕（計１件）

1.溝端佐登史『ロシア大手企業の事業多角化の実態』2008年、ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所、総104頁（第１章「ロシアにおける大資本の変容と経営戦略」1－28頁、第２章「バーザヴィ・エレメント社の事業多角化の動態」29－58頁を執筆）。

〔その他〕（計５件）

1.Satoshi Mizobata, Financial Crisis in Russia, EACES Asian Workshop in Kyoto, proceeding, February 2009, KIER, Kyoto University.（学会報告集での報告論文の公表）
2. Satoshi Mizobata, “Comparison of South-East European Economies and Japan: Lessons for Transformation”, JICA programme lecture in Macedonia, 2009年２月10－11日、マケドニア、スコピエ。

などによって社会還元。